

岩下副委員長（民主県政会）

平成 31 年 2 月 28 日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）府中町立中学校の事案を踏まえた改善の取組について

府中町立中学校の事案に係る当時の校長が作成した報告書の読後の感想と、県の立場から教育現場をどのように改善していきたいと考えているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

この事案につきましては、様々な課題が指摘されておりますが、私は、とりわけ、教育の原点とも言える「子供に寄り添った教育」ができていなかったことが最も重い課題であり、このことを厳しく受け止める必要があると考えております。

「どのようなことがあっても、絶対に子供たちの尊い命を失わせることはあってはならない」全ての基本はここにあり、教育に携わる者が強く認識すべきことでございます。

「子供に寄り添った教育」の実現のためには、校長のリーダーシップのもと、子供を起点とした「自律した経営」になっているか、管理職と教職員とが互いに学校の夢を語り、そして教職員一人一人が自律的に学校経営に参画しているかなどを点検し、改善していく必要がございます。

この事案で指摘された様々な課題は、全ての学校で考えなくてはならない課題であり、改善に向け、あらゆる場面を通じ全県的に普遍化する取組を着実に進め、市町教育委員会と連携をしながら、このような悲しいことが二度と起こらないよう、今後も全力で取り組んでまいります。